

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホームすずらん 壱番館		
所在地	長崎県佐世保市大宮町43-16		
自己評価作成日	令和5年8月28日	評価結果市町村受理日	令和6年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、利用者の方々が日々楽しく安全な生活を送っていただけるよう支援しています。施設内では利用者間での交流を持てるように工作やレクリエーションを行い、仲良しの利用者同士がお話しされたりしています。健康面でも音琴クリニックを中心に、24時間医療連携体制や訪問看護による週1回の健康チェックを実施して、医療面でも安心して生活していただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所設立20年目を迎え、「いつまでも自分らしく暮らしたい」の理念に基づき、入居者ができることを継続しながら楽しく暮らせるよう支援に努めている。入居者はガーデニングの他、季節の生花を生け、日課のパズルや編物に精を出し、時には紙飛行機飛ばし大会で競い合っている。事業所は地域に根付いており、農作物等の差し入れがあり、知見者からは手芸品が届き、100歳体操の再開を望む声もあがっており、職員が毎月町内清掃を行い、地道に努力してきた証と言える。運営推進会議は、今夏から対面会議となり、家族の意見を支援向上に繋げた事例が議事録にて確認できる。職員の意見は代表に届く仕組みがあり、トイレの改修を行う等、職場環境改善に努めている。医療面では、主治医や訪問看護師との信頼関係も強く、24時間連携体制は、入居者、家族にとって大きな安心に繋がっている。本人のペースを尊重し、チームワーク良く、理念の具現化に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入るようにフロア入り口に掲示し、常に意識しながらサービスを提供できる環境を作っています。	ホーム長は新人研修にて、理念を説明する他、日々のミーティングにおいても、支援の基本となる心構えを説いている。職員は、入居者の日々の様子を情報共有し、課題解決の為、頻繁にカンファレンスを行っている。生活歴や趣味の延長で、入居者が生きがいを持って、楽しく自分らしく生活できるよう、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して交流したり、清掃活動に参加したりしています。コロナも落ち着いてきたので、以前のように利用者の地域行事への参加、施設行事への外部からの参加やボランティア受け入れなどの交流の機会を設けていきたいです。	町内会に加入しており、回覧板の情報の他、町内会長や婦人部長と交流がある。職員は自主的に、毎月町内清掃を行っている。近隣からは、農作物や新聞、ウエス等差し入れがあり、知見者からは手芸品や色紙等が届き、地域との信頼関係が窺える。地域住民からは、事業所での百歳体操の再開を望む声が上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する質問や疑問について、地域の方や利用者のご家族や知人から度々お話があり、その方にあった情報提供をするよう心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で書面会議として2か月に1度、施設での取り組みや利用者の状況などを会議参加者に送り意見書に記入していただいていた。今夏より対面で会議を再開しており、様々な質問やご意見を頂戴しています。	運営推進会議は、2ヶ月毎の書面会議を開催しており、構成委員や家族に議事録を送付し意見を募っている。家族の意見から、毎月のすずらん便りに日常のコマ写真を増やす等、意見の反映がある。今夏からの対面会議は、家族同士の歓談を通じて、サービス向上に繋がる有意義な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの方に参加いただいています。また長寿社会課や生活福祉課とはたびたび連絡を取り合い、協力関係が築けていると思います。	市とは、主にメールや電話で連絡している。市担当課は、定期的に入居者の認定調査に訪れている。包括支援センター主導のオレンジモデル地区として、事業所が選出され、多職種間での情報共有、連携を行う等、協力関係構築に努めている。市主催の研修案内には、オンラインで積極的に参加し、スキルアップを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修等を通して、どのような行為が身体拘束に当たるのかを理解するよう務めており、日ごろから身体拘束にならないケア方法を話し実践するように努めている。現在はスピーチロックを特に意識して互いに意見交換しながら取り組んでいます。	身体拘束適正化の為の指針を整備し、3ヶ月毎に委員会を開き、職員に周知している。やむを得ない場合は、家族に同意を得て行っており、解除に向け検討している。研修は内部年2回、外部は1件を受講し、更に1件受講予定である。言葉遣い等気づきがあれば、ホーム長からその場で指導があり、職員間でも注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講演会、研修には積極的に参加、職員間での共有をすることで虐待に関する知識を深め防止に努めています。現在は「言葉」について職員同士で互いに注意しながら取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者・ご家族に権利擁護に関する各制度についてわかりやすく説明できるよう、正しい知識の習得に努めています。必要に応じて専門の方を紹介できるよう支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改正時には書面を用いて利用者・ご家族が分かりやすいように説明を行い、疑問に対しても十分理解し納得いただけるよう丁寧な説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族からの意見、要望に関しては、いただいた時点ですぐ上司への報告をするようになっています。また意見箱や手紙などを通じて頂戴したご意見をもとに、改善に努めています。	入居者には、衣類を購入する際、カタログから選んでもらったり、敬老会の菓子の希望を尋ねている。買い物に行きたいという要望も叶えている。家族の要望は面会時に直接聞き取っており、遠方の家族には、電話で近況を伝え、便りの写真を増やすよう配慮している。希望があれば、LINEでの面会も可能である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーが中心となり各職員の意見や提案を纏めてユニット会議を実施、代表者に報告・提案している。また、カンファレンスを通じて運営に反映するようになっています。	職員は、日頃から少人数で集まり話し合っている。ユニット会議や月2回のカンファレンスには、全員出席している。その都度意見が出ており、トイレの改修が実現している。人事考課後にホーム長との面談があり、職員の意向を聞き取っている。希望休の100%取得や資格取得時の補助も実施し、働きやすい職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を行い職員が向上心を持って働けるよう努めています。また職員からの意見にも耳を傾け、職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習や研修を受けられるように情報提供や参加を促して、職員が積極的に参加できるようにしています。また職員間でも意見交換を行い、介護力を高めていけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する研修等を通じて交流する機会を設けています。また会議等で管理者同士の交流の機会があります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談等での利用者との会話の中で感情、表情、動作などから本人の想いをくみ取っています。職員間で共有し、寄り添っていくことで信頼関係を築いていけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面会や電話での連絡時などご家族と接する機会があるときにはご家族からの要望をヒアリングするようにしています。また電話やお便りなどで近況報告をして安心していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族から必要としている事、心配していることを聞き、必要に応じて訪問歯科や医療機関の受診や往診などを手配するなどの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は普段から利用者とのコミュニケーションを大切にしており、利用者の思いやできる事を利用して掃除や洗濯などの手伝いをお願いしています。一緒に行うことで支援されるだけではない関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の施設での生活の様子、要望などを都度連絡し、協力していただけることをお願いしています。ご本人を家族と施設とが協力して支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に面会の日程を連絡していただき、感染対策をしっかり行った状態でお話できる機会を設けています。外出に関しても感染対策の協力をしていただきながら可能な限り外出できるよう支援しています。	携帯電話で家族と話したり、母の日の手紙や年賀状を受け取る入居者がいる。最近では、近所の知人が訪ねて来たり、冠婚葬祭に出席し、家族と外食に行く人もいる。美容師が定期的に訪れ、入居者全員のカットを行い、顔なじみとなっている。編み物や生け花を楽しむ姿から、馴染みの関係継続に力を入れていることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に活動できるように、イベントの飾りや貼り絵などの工作の作業を提供し、協力しながら活動できるようにしています。また、トランプや風船バレーなどへの参加を促し、利用者間のコミュニケーションを促すよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者の動向を気がけ、ご相談があれば積極的に対応しています。また、ご家族の知人が利用したいと連絡を頂くこともあり、その際は情報提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃から施設生活の中での会話や行動、表情などから利用者の想いをくみ取り、希望や意向に沿った生活支援をしていくように努めています。	日中の過ごし方は、入居者毎にさまざまである。洋服を選んでもらい、ヘアブラシはそれぞれが好みのものを持っている。職員は、入居者によく話掛けており、話が尽きない時もある。そのようにして聞き取った事柄は、介護記録に記載して周知を図っている。ただし、データとして蓄積できないため、将来までの共有化が図りづらい。	現在は、入居者の思いや意向を把握して「自分らしく」暮らしていけるよう支援ができています。将来、新たに採用する新人にも入居者の人となりを把握してもらうためには、より良い共有化の方法について検討することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されるにあたり、利用者やご家族、担当ケアマネから生活史や生活環境等について情報収集しています。それらをサービスに生かせるよう職員間で共有し支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者を観察して状態の変化や有する現状の力を職員で共有し、今何が必要なのかを具体化して施設での支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのモニタリングを月3回行って問題点を抽出し、サービス担当者会議で利用者ご家族を含めて検討、現状に即した介護計画となるようにしています。	ケアの実践状況や入居者の様子はタブレット記録とし、担当職員が月に3回モニタリングを行い、課題を抽出している。サービス担当者会議での医療面の助言や家族の意向に沿ったケアプラン作成に繋げている。長期1年、短期6ヶ月のケアプランは、本人・家族に同意を得て実践している。変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケア内容をタブレットで記録しています。必要な時に情報を見ることができ、職員間の共有にも役立っています。それを基に利用者ごとの介護計画を作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が対応できること(外出や近隣病院への送迎など)はできるだけ要望に答えるようにしています。また買い物の希望などがあれば職員が代行することもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室に出張していただき年に数回髪を切っていただいている。またコロナが落ち着いてきたので、以前行っていた花屋さんを招いての園芸教室や地域の方との百歳体操などを再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者のご家族が主治医と面談していただき、月2回の受診もしくは往診を受けるようにしている。また、特変時にはすぐに往診が受けられる体制を整えている。	入居者・家族は、主治医との面談で受診か月2回の往診を選択している。訪問看護師が毎週訪れ健康管理を行っており、急変時も24時間医療連携を整備している。歯科は往診もあり、他科は家族が支援している。受診結果は、変化があれば主治医から家族に連絡があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護サービスを利用している。また毎日バイタルチェックを行い、特変があれば連絡し指示を貰っている。急変時にも24時間対応していただけるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時には情報提供を行い、各病院のソーシャルワーカーとの連絡を密にして利用者の状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化や終末期の在り方について利用者・ご家族から希望を伺い、施設で出来る事の説明を実施している。また希望を変更する場合も主治医とスタッフとで連携してその都度状況をご家族と相談しながら進めている。	契約時に終末期の在り方について指針を基に家族に説明し、同意書を得ている。入居者の体調変化に伴い、主治医、家族、職員で協議を重ね、今夏1件の看取り支援を行っている。家族の意向に沿って、宿泊することも可能であり、安らかな最期を迎えることができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡手順や応急手当の方法は事務所に備付けのマニュアルに記載し常に確認している。また事故発生時には他のスタッフと連携して焦らず対応するよう、特に新人に対して頻りに声掛けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月に1回夜間の火災を想定して訓練を行っています。災害時の避難場所、経路を把握できるようにデイスサービスフロアに地図を掲示しています。また毎日防火チェックを行い、火災発生リスクの低減に努めています。	新型コロナ禍で消防署立会いや地域との訓練は見送っているが、毎月、夜間想定2回を含む自主火災訓練を実施し、全職員が参加している。火災予防のための日々点検や建物天井、梁、壁のモルタル等、自然災害に関しても定期的にチェックを行っている。非常持出ファイルや備蓄を整備し、BCPIは、現在作成中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者其々の人格や性格、認知症の状態を理解した上で、他の利用者との関わり方を考えています。その人の考えを尊重し、今できる事を探していくよう努めています。	職員は苗字にさん付けで入居者に声掛けし、トイレや着替えの介助をする時は、必ず声を掛けて行っている。また食事の際は、決して入居者を急かさないう配慮し、尊厳を重んじた支援を行っている。職員は、守秘義務の誓約書を提出している。更に、便りに写真を掲載する際は、家族から同意書の提出を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、利用者意思確認を行い判断して貰っています。自己判断が難しい方については選択肢を提示して意思に近いものを選んでもらえるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた介護を心がけています。起床時間や入浴日などはある程度決まっていますが、各自の気分によって時間や曜日を変更しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がこれまで送ってこられた生活を尊重し、衣類の選択や化粧、洗髪に使用する道具などについて、希望に沿うように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話などから利用者の好みや作り方などの情報を頂き取り入れるなどしています。また、簡単な調理や片付けの手伝いなどをお願いしています。	献立と食材の調達は、外部の業者を利用している。時には、入居者が野菜の下ごしらえを手伝う時もある。きざみ、とろみ食にも対応し、塩分量への配慮もある。正月の雑煮の餅は、白玉を使う等、嚥下にも配慮している。さくらんぼを枝から皆で食べたり、差入れのさつまいもを使ってのおやつ作り等、食事が楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録に残し、摂取量の低下や体調不良が見られた際は主治医に相談し栄養補助食を提供しています。また糖尿病の利用者については過度な接種とならないよう医師と相談しながら気がかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けを行い、利用者個々の能力に応じて見守り、声掛け、介助を行っている。義歯の方は夕食後に入歯洗浄剤の使用を促しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を記録し個々の排泄パターンを把握しています。自立して排泄ができるよう声掛けを行い、場合によっては誘導をしています。また安心してトイレでの排泄ができるよう尿取りパッドやリハビリパンツを使用する方もいます。	入居者の排泄の記録をタブレットを活用して行っている。職員は、入居者それぞれのパターンを把握しており、パッドの大きさを細かく調整している。他施設からの入居後、改善した事例や布の下着を使用している人もいる。失敗時には、さりげなく誘導し、自尊心へ配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録から-3日排便がない場合、主治医から指示された下剤を使用して排便を促すようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別浴で自分に合ったペースで入浴していただけるよう見守り、介助を行っています。基本的に入浴日は決まっていますが、気分に応じて臨機応変に対応しています。	入浴は、一日3名ずつを基本とし、一人週2回の間隔である。汚れた場合には、随時シャワー浴を行っている。菖蒲湯やゆず湯で季節感を大切にしたり、足浴でリラックスする支援もある。歌を歌ったり、思い出話をする入居者もいて、入浴が、気持ちの良い時間となっている。ただし、入浴日以外の清拭等は、不定期である。	入浴は、入居者にとってリラックスでき、清潔を保つためにも、大切な時間である。回数を増やすことや清拭等を定期的実施できないか等、職員間での検討が待たれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、居室での休息や入床ができるように支援しています。また安心して入眠できるよう室温や服装、明るさなどに配慮するよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の健康状態の現状を把握し、内服薬の種類や効果を理解するようにしています。誤薬が発生しないようにチェック表や服薬前の相互確認を複数回実施することで支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みに応じて利用者本人が希望されること(編み物、折り紙、塗り絵など)を支援して、施設での生活が楽しく過ごせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節にはドライブ日を設けて近所の公園や景色の良い場所に出かける事もあります。天気の良い日には玄関先で日光浴をしたり利用者同士でお話をしたりするなどしています。	日頃から玄関先で日光浴したり、ガーデニングを楽しんでいる。近隣のショッピングセンターに車椅子の入居者と出掛け、ペットコーナーで癒しのひと時を過ごしている。春には、花見のドライブを実施し、「また来たいね」と入居者から声があがっている。今年は、冠婚葬祭で出掛けた事例もあり、積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい利用者がほとんどなので、施設で管理をしており、希望に応じて必要な分を使っていただくようにしています。また金銭の状況については月に1回ご家族へ詳細を共有しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使ってご家族とお話しされています。利用者に電話があった場合は横で見守りながら、支援が必要な方については補助をすることもあります。また手紙や荷物が届いた際は利用者、ご家族にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に施設内でも季節を感じていただけるようフロアの飾り付けを実施しています。またトイレは使用中がわかるよう大きな札を掲示しています。天窗からの光がまぶしすぎないように、カーテンを付けて調整しています。	玄関やリビングは、職員が得意分野を活かし季節の飾りつけており、家庭的でおもてなしの心が現れている。感染症に配慮し、清掃や換気はこまめに行い、清潔保持に努めている。入居者は、ポウリングやトランプ等のレクリエーション、新聞折や調理手伝い、テレビ鑑賞と自由に過ごしており、居心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブル席かソファを用意して、一人で過ごしたい方、音楽やテレビを見られる方、お話をされたい方など、状況に応じて使用していただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用されていたイスやテーブルなどを持ち込まれ、慣れ親しんだ環境で施設生活を送っていただけるよう配慮しています。利用者の希望に応じて自由に配置換えなどをして過ごしやすい環境づくりを支援しています。	新しい環境に慣れる為、馴染みの物を持ち込みができる。椅子やテーブル、位牌やテレビ等、本人の動線に合わせて配置している。壁にはタペストリーや塗絵作品を飾っている。夜間のみポータブルトイレ使用時は、センサーマットを使用しており、自立への配慮が確認できる。清掃、空調管理で清潔な居室となるよう工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は杖歩行、車いすでも安全に移動できるよう導線を確保しています。また各自居室が分かりやすいようネームプレートを設置したり、日頃使用するトイレや浴室にも大きな字で掲示したりするなど判別しやすくしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社 やさか		
事業所名	グループホームすずらん 貳番館		
所在地	長崎県佐世保市大宮町43-16		
自己評価作成日	令和5年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、入居者の方が日々自分らしく安心安全に楽しく生活ができるよう支援しています。コロナ禍で制限していた外出や外部との交流も少しずつ制限を緩和し、面会等も再開しています。施設内では体操やレクリエーションを実施し楽しく過ごしてもらえるよう支援しています。24時間医療連携体制、訪問看護も継続しており、介護・医療の両面での充実を図り、体調管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月カンファレンスを行い、各ユニットの入居者の状況や情報を交換し共有しています。その中で「自分らしく暮らしたい」という理念をもとに介護計画を検討・作成しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属して清掃活動に参加したり、消防団の方が訪問してくれたりして交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域との交流の機会が薄れていますが、町内会の方を中心に入居者の方と話す機会を設けるなど、認知症の方々への理解を深める機会を増やしていけるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面会議を実施していましたが、7月より対面での会議を再開し、関係各所との意見交換や情報共有を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿社会課や生活福祉課など、関係する行政との連絡をこまめにしています。疑問や懸念がある場合も質問するなどして協力関係を構築しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極カスタッフでアイデアを出し合い、身体拘束しない支援を検討しています。また施設内・外研修での身体拘束の事例検討を通じて、身体拘束に該当しうる行為の認識、知識の共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料や新聞記事、報道等の事案を用いて内部研修を実施し、虐待防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族構成等により、成年後見制度等を活用した支援につなげられるよう、日頃から行政や社会福祉協議会との関わりを大切にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの段階での丁寧な説明、入居契約時の契約書、重要事項の説明などをゆっくり丁寧に実施するよう心がけています。また料金改定の際にも事前に詳しく案内を送付して理解を得るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にご家族から出た意見や入居者からの要望をできるだけ施設運営に反映していけるよう努めています。直接伝えにくい場合は意見箱を設置しており、利用していただくようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内でのカンファレンスや日々の業務の中で対話や意見交換をしています。職員の様子を観察しながら、困っていることなどを相談しやすい環境を作るよう努め、業務改善やスタッフ支援をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、担当業務や職責等に応じて期待する事項、課題などをフィードバックしています。人事考課に関しては個々の勤務状況を把握した上で評価し、スキルアップ等の機会を提供するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修者内部研修、勉強会を開催し、スタッフ同士でケアの知識やスキルを高めていく。資格取得に関してもシフトの調整をするよう支援しています。またタブレット等を活用して、隙間時間でも能力向上に繋がられるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の全体研修や、ブロック研修への職員の派遣、また当施設で実施する会議への職員の参加により交流機会を確保しています。また管理者については他施設への訪問、連絡などの機会があります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーや担当医、家族にこれまでの生活歴を聞き、内容を理解した上で本人が安心して新しい環境に馴染めるよう言葉かけを十分にしながら関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安なことについて、家族の要望を把握して関係各所と連携し状況を解決していくよう努めています。その際はご家族から話をしやすいように普段からのコミュニケーションを大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設への入居は勿論の事、ご本人の身体状況に応じた病院受診の手配や相談、ご家族の不安を解消する対応(手続きのお手伝いや行政との橋渡しなど)に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに対して時間を共有する中で出来るだけ言葉かけを行い、本人の気持ちに寄り添い、信頼しあえるコミュニケーションを目指して取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも家族への相談や報告を行い、共に支える支援者として協力しあえる関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問はご家族の同意を得て実施できるようにしています。また冠婚葬祭に関してもご家族の協力のもと希望に応じてできる限り参加できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を見極め、レクリエーション等で一緒に楽しめることを検討し実施しています。また日々の生活の中で協力、役割分担してできる事を継続していけるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーや担当医と連携し、退去後についてもフォローできるよう努めています。またご家族から知人の入居をご相談いただくこともあり、関係性を継続していけるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にゆっくりと会話をする時間を設け、その際に発せられる本人の想いや希望を支援に繋げていく。要望を叶えるためにスタッフ間で共有し実行できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面談を行い、本人やご家族から聞き取りをしています。また医療機関やケアマネージャーからも情報を収集し、スタッフ全員が情報を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況に応じた見守りや介助を実行しています。入居時には本人・家族・医療機関等から情報収集し、残存機能や生活歴、経験などを活かせる生活環境づくりに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の希望やできる事を中心に、周辺症状の緩和や課題解決を踏まえて計画を作成している。家族やかかりつけ医、訪問看護師等とも連携し、計画内容の参考としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の様子、言動を詳しく記録しており、対応の事例として共有できるようにしている。また計画作成に当たっては記載内容を参考にしてケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居中に生活保護へ切り替えられる方がいらっしゃった場合、ご家族だけで手続きが難しい場合は記入や申請をお手伝いしたり相談に乗ったりしています。ケアだけでなく、本人、ご家族の困りごとを解決できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職場体験の受け入れや幼稚園の子供たちとの交流、近隣の方々との百歳体操実施など、地域の皆さんとの交流の機会を設けるよう支援しています。※コロナのため一時中止中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診があり、突然の体調不良についてもすぐに往診に来ていただけるよう日頃からの情報共有や信頼関係の構築に努めています。またご家族や本人の希望で他科の診察が必要な場合にも紹介していただくこともあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを継続しています。スタッフが不安、疑問に思っている事や入居者の訴え、処置の方法などを相談して指示やアドバイスを頂戴し、適切な支援ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と24時間連携しており、急変・緊急時にはすぐに連絡を取れる体制を構築している。また入院時には担当SWとの連携を密にして、早期退院が可能となるよう情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際には看取り支援も含めた終末期に対する施設の考え方、取り組みを説明している。また家族の希望もヒアリングしている。実際に状況に変化があった場合は、本人やご家族、主治医も含めて相談しながら可能な支援を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はすぐに主治医に連絡し指示を仰いでいる。応急手当や初期対応については日頃より主治医や訪問看護師から指導してもらい実践力を身に付けている。また施設として解熱薬やその他の薬を主治医から預かっており、指示に従って緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	施設内は全て防火素材のカーテンをしており、各居室、フロアにはスプリンクラーを設置している。災害対策として非常用コンロ、飲用水、生活用水を備蓄し必要時に持ち出すための入居者情報をファイリングしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、更衣の際には羞恥心に配慮するよう心がけています。異性介助に抵抗があられる方には同性で対応しています。また、言葉で傷つけることがないように、丁寧な話し方、敬語等を状況に合わせて適切に使用するよう注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着用する衣服の選択や、日中の過ごし方（歌、塗り絵、TV視聴など）の選択、居室へ戻られる時間など、ご本人の希望をベースに決めていただけるよう配慮し支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間など、できる限り本人のペースに合わせた対応をするようにしている。また入浴についても希望に合わせた曜日や順番の変更など、可能な範囲で対応し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室に来ていただいて整容して貰ったり、ご家族に好きな衣類を購入してもらったりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食材の下ごしらえやテーブル拭きなどの準備、下膳等を手伝ってもらえるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の不足があると診断された場合には補助食品を提供して経過を観察しています。食事・水分の摂取量については個人別に記録し、量の調整を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕飯後に一人ずつ誘導して口腔ケアを実施しています。義歯の方は夕食後に洗浄液につけ清潔を保つよう支援している。また本人や家族からの希望があれば歯科往診も手配もしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯を問わず各々の排泄パターンを把握し言葉かけを行いトイレに誘導しています。夜間にポータブルトイレを使用される方についてはセンサーマットを用いて、危険がないように見守りを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々人のリズムを把握するように努め、個別に排泄チェックを実施しています。また十分に水分を摂取するように心がけ、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴で支援を行っています。温度や順番の希望も聞きながら入浴日や時間の調整をし、ゆっくりと入浴ができるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの時間の流れに合わせて居室の環境や着替えの支援などをしています。気温や湿度、ご本人の年齢等も考慮して気持ちよく休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の内容を把握するため、日ごろから内服薬説明書を確認している。また、誤薬を発生させないようセット時や介助時にチェックするための資料を作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、カラオケや折り紙、塗り絵など本人のやりたいことをしてもらっています。また洗濯物畳みや食事の準備などの家事についても手伝ってもらい、部屋に閉じこもらないような支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1度ドライブに行く機会を設けたり、買い物に出かけたりできるよう、本人の希望を聞きながらスケジュールの調整や家族との相談をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では認知症のため金銭管理をご自身する方はいませんが、外出時などは支払いの際にご本人とともに支払いをすることなどで支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話を希望された場合はその都度施設の電話で対応しています。また携帯をお持ちの方については必要に応じて補助等を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の壁やボードは季節を感じられるように飾っています。また室温の異常や慣れない音などが発生しないよう注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、畳など、ご本人が好きな場所で過ごしてもらえるようにしています。カラオケや体操時には仲の良い入居者同士がソファに集まって談笑されることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご自宅で使われていたものを持参していただくなど、少しでも違和感がないようにご家族と相談しながら対応しています。また、ご本人が希望されたものについてはご家族に購入してもらうなど、過ごしやすい居室づくりをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな字のカレンダー、居室のネームプレート、浴室やトイレの掲示など、入居者自身で場所などがわかりやすいようにしています。また夜間にはポータブルトイレを設置するなど、安全かつ自立して過ごしていただけるよう支援しています。		